



高齢者・障害者等に配慮した建築物

いぶすき

## 指宿邸

所在地：習志野市大久保3-5-15

施主：指宿正美・加代子

設計：夏目設計事務所

施工：(有)木源ハウジング



指宿邸は、脳溢血の後遺症で自宅で療養生活をするようになった老主人と同居する息子夫婦、それに老主人の愛犬一匹のために建設された住宅である。

一階には、老主人の居室が居間に連続してとられ、天井まである引戸を開閉することによって、家族とのだんらんを楽しんだり、ちょっと横になって休んだりといったことが無理なくできるようになっている。

また、台所は若い主婦の心地のよい居場所として、家全体に比べると少しゆとりのあるスペースと設備になっている。

二階は若夫婦のための空間である。ベッドから星の見える寝室、趣味を楽しむための和室、納戸などが、最小限のスペースの中に立体的に具合良く配置されている。

いわゆるバリアフリーとしての対応は、玄関からの廊下幅を広くして、その真ん中にポールをたてることにより、手すりを設置するようになっている。手すりを設置する壁がないために考え出されたアイデアである。開口部は幅を広くし、引戸もしくは折戸である。

ところで、残念なことに、老主人は愛犬を残して一



昨年亡くなられた。今は若夫婦と一匹のための住まいである。しかし、障害を持つ住み手がなくなったにもかかわらず、何も不自然な感じがしない。

バリアフリーということをことさらに強調した設計ではなく、長く住まえる柔軟さと強靱さを備えた住宅であり、建築文化賞とした。

(園田真理子)